

北海道のよさを生かし、  
「ありがとう」を  
稼ぎたいんです

vol.  
07

しんどさんこばなし



一步先の「新とさんこ」を  
新とさんこ研究所  
山岸所長が訪れる



新とさんこ

#07

内藤大輔さん

㈱北国生活社代表取締役。北海道大学工学部卒。商社に勤務後、農業などのアルバイトを経て、亜麻の栽培の事業化に参加。販売部門を受け継ぎ、2007年に北国生活社を設立。販売や商品設計などで北海道を応援する。札幌市出身。

● ㈱北国生活社 ●

札幌市西区西町北6丁目1-1 ユニビル2階  
電話 011-887-7970

「自然の中で働きたい」から、ベンチャーを応援する仕事へ

180cmもある身長で、「とにかく自然が好きで、いまだに昆虫少年です」と、はにかんだ笑顔で話す。北国生活社の代表取締役内藤大輔さん。飾らない人柄に、ついビジネスマンであることを忘れてしまいたい。内藤さんは、自然の中で働きたい、この思いから、北海道大学を卒業後、就職先に商社を選んだ。「自然の中で働くなら農業がいいかな」と思っていた20代の頃、バックパッカーで行った東南アジアで商社の人に出会い、自分が農業をやるにも、まずはお金の流れをちゃんと勉強した方がいいなと思ったんです。

就職先でよき先輩に恵まれた内藤さんは、経営から経営の基礎までを学び、2年後に退社。北海道へ戻り、農業のアルバイトで生計を立てながらバイオの勉強会に足を運んでいたところ、商社の経験を買われて声が掛かり、北国生活社を設立した。

北海道の得意分野を生かす

製品や原料提供をはじめ、現在は企画から製造、販売までトータルでの商品設計も行う。「例えば、ある植物で化粧品を作りたいというとき、どの市場に向けてどんな製品を作るか、製造できる工場など、トータルで提案しています」。利益を上げるまでには時間がかかるが、それより「ありがとうを稼ぎたい」と話す。「仕事でうれしいのは、何年も苦労していた商品が大きなメーカーと契約できて、『ありがとう』と言われたときや、工場に案内した大手企業の方が、「いい物を作ってくれてありがとう、おかげで自信をもって商品を売れます」と作り手に頭を下げてくれるのを見たときです。あのときは本当にうれしかった。一次産業は北海道の得意分野。北海道のよさを生かし、大好きな北海道のプラスになるこの仕事を、これからも続けていきたいと思っています」。



北海道女性の79%は北海道には明確な「個性」や「らしさ」があると思う。  
北海道民の食行動意識はこちら  
<http://shindoken.com>

新と研

しんどさんこ研究所

インタビュー

新とさんこ研究所 所長  
山岸 浩之  
Hiroyuki Yamagishi

2014年北海道博報堂入社。  
コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。

